

令和7年度第2回学校運営協議会 記録

日 時 令和8年2月2日(月)

9:30~11:30

場 所 小中学部校舎音楽室

○出席者

学校運営協議会委員6名 A委員(社会福祉関係者)
B委員(地域関係者)
C委員(地域関係者)
D委員(企業関係者)
E委員(社会福祉関係者)
F委員(P T A関係者)

学校関係者9名 校長、副校長3名、事務長、総括教務主任、
小学部長、中学部長、高等部長

～ 授業参観 ～

次 第

- I 開会のことば
- II 校長あいさつ
- III 協 議
 - 1 令和7年度学校経営計画について
 - ・令和7年度の学校評価について
 - 2 令和7年度の主な事業の実施状況について
 - (1) 特別支援教育のセンター的機能について
 - (2) 交流学习及び共同学習について
 - (3) 学校へ行こう週間について
 - (4) 中学部・高等部の進路状況について
 - 3 令和7年度のいじめ防止に関する取組について
 - 4 その他
 - ・第9回特別支援学校技能認定会結果について
- IV その他
- V 意見・提言
- VI 閉会のことば

《授業見学》 9:37~10:17

・小中学部 授業参観

次 第

I 開会のことば (10:19)

II 校長あいさつ

雪の多い天候の中、参集頂いた委員への謝辞を述べた。

本校では、児童生徒の社会参加と自立を目指し、学校や地域で様々取り組んできた。各学部の光が当たった、頑張った様子を紹介。(高等部のプランター設置の県警本部長表彰、中学部の盛岡北郵便局花壇整備、青山雪あかりへのろうそく 2000 個の納品、小学部の書道・絵画・T シャツコンクールへ応募し次年度の 24 時間 TV のデザインになるかもしれないこと)

III 協議

1 令和 7 年度学校運営状況について

・令和 7 年度の学校評価について (担当副校長)

内容説明 (資料より)

- A 委員：数字に一喜一憂することではなく、具体的な部分を重点的に考えた方がよい。本人・家族の思い、時には交錯することもあるが、本人の思いを大事にしてほしい。
- B 委員：本日の授業参観や朝のトイレ指導の様子を見て、日生が日常生活に係る指導であることの意味がようやく分かった。老朽化については予算がからむこと。予算がつくまで毎年のように要望し続けるしかない。朝の解錠時間を早めてほしいという意見について (背景は…8:30 までは開錠していない、一人でいることが難しい児童生徒が対象だから。また、働いている保護者の増加のことなどを確認したうえで) 年に 3 回とか事あるごとに説明、知らせることが必要である。設問 5 の「きれいですか」を「丁寧に使われていますか」などと表現を変えた方がよい。職員の業務負担感に関しては、「業務だから行う」と説明しても良い内容だと思う。
- C 委員：解錠時間については仕方がないこと。保護者へきちんと説明することが必要である。(夏場と冬場で時間を分ける案、何名の意見か確認することなどにも触れた。) また、実習中の弁当の負担については、親を育てる意味でも説明し続けて協力を得た方がよい。授業参観をして地域の一人として一生懸命取り組まれていることは認めているので、先生方はもっと自信をもって良い。なお、教職員への設問 2 2 (職員間のコミュニケーション) は大切な視点であると改めて思った。
- D 委員：生徒のアンケート結果が昨年より大きく数字が変わってしまったことへの違和感が大きい。毎年同じ質問をしているはずなのに大きく変わっているとすれば、質問の仕方について考慮する必要があると思う。また、老朽化について、我々運営協議会委員にも分かるように関心を向けられるように授業参観や見学に組み込んでみることも必要ではないかと思われる。そうなれば、声をあげられる。
- E 委員：数字を追っても仕方がないのでその背景に何があるのかを考えた方がよい。端末を子どもたちに操作する環境が適切だったかどうか問われている。「分からない」にチェックする子どもたちが多い。設問 10 の進路希望云々につ

いて「分からない」へのチェックが多いのでかみ砕いて説明するなどが必要だったのではないか。保護者アンケートの回収率の高さに感心する反面、教職員の回収率 100 パーセントでないことに疑問が残る。

○F 委員：生徒評価で高等部の回収率の低さが気になる。受入時間については、松本議員からも質問を受けている。勤務時間が 8:20～16:50 ということであるが茶話会（久しぶりに開催したもの、ほぼ母親だったために父親のための懇親会を開くなどの話題も出ていた）で働きたいが解錠時間に合わせた丁度良いパートの時間がないなどの意見も出ている。学校だけでなく、日中一時支援の拡充など社会全体での問題でもあるので、声を上げていきたい。アンケートの取り方について 5 段階評価にせず、4 段階評価でとるとはっきりした結果がでると思う。

2 令和 7 年度の主な事業の実施状況について…資料説明（担当副校長）

(1) 特別支援教育のセンター化機能について

(2) 交流及び共同学習について

○C 委員より自治会作品展への参加などのお礼あり

(3) 学校へ行こう週間について

(4) 中学部・高等部の進路について

○B 委員より進路内訳の項目について特に「生活介護」についての質問あり。そのうえで、学校評価の設問の表現の見直しなどについて改めて言及。

3 令和 7 年度のいじめアンケートおよびいじめ認知について（担当副校長）

IV その他

第 9 回岩手県特別支援学校技能認定会結果について（担当副校長）

V 意見、提言（特にある方として提案）

F 委員：1 月 22 日付の一斉配信システム「スクリレ」について 任意ということになっているが、(皆さんの協力によって、いずれは案内文書のデータ配信も考えているという回答を得て) できれば、もっと強めに要望しても良い様に思う。(スマホの保持など問題は考えられるが)

校 長：長時間にわたり、貴重なご意見提言を頂いたことへの謝意を述べた。その中で

① 朝の解錠の件の主訴は理解している。県全体の課題でもある。県の特別支援学校 PTA 連合会でも話題になっていることなので、動きを把握しておきたい。

② 学校評価については、アンケートの誤差、中身の見直しなど検討していきたい。

③ 職員の業務についてはいろいろと整理して外部に頼めることはないかなど考えている。対話を重ねて進めていきたい。

④ 交流及び共同学習については国や県レベルで取り組んでいる重点項目なので、直接やり取りする際の交流及び共同学習への理解が不十分であることが課題である。

⑤ 職員の挨拶への指摘については、職員の前でも取り上げて話している。本校の教育目標に掲げているように一人一人が輝く存在として引き上げられるようにしていきたいと思っている。

VI 閉会のことば（11:45）